

1 山辺町立小・中学校の「赤ちゃんが先生」の実践 (山辺小、大寺小、相模小、作谷沢小・中、山辺中)

「命の大切さ」を学ぶ 町をあげての事業

学校と教育委員会教育課並びに保健福祉課、そして地域の乳幼児と保護者、ボランティアが連携し、命の大切さを学び、いたわりの心を育む機会を提供しています。

- 赤ちゃんにかかわることを学ぶ
 - ・教育委員会からの説明を受け、事前学習として、赤ちゃん人形を使って抱っここの仕方や接し方、おむつの替え方などを練習したり、自分が赤ちゃんだったころを振り返ったりします。
- 赤ちゃんたちと交流する
 - ・保健福祉課が行う乳児健診時に教育委員会とボランティアの方々が募集した赤ちゃんたちとご対面。抱っこをしたり、おんぶをしたり、ミルクをやったり…。中には、おむつ替えに挑戦する児童(生徒)も。突然泣き出したり動き回ったりする赤ちゃんや小さな子どもたちに困惑しつつも、赤ちゃんのお母さん方との会話を通し、命の大切さや重さ、育児の大変さなどを学びます。
- 振り返ってまとめる
 - ・授業でわかったこと、感じたこと、不思議に思ったことをまとめ、次回の授業につなげます。(小学校では春と秋の2回実施し、赤ちゃんの成長を実感します。)



2 山形県立山辺高等学校「山辺チーム食育」の実践

「食育」でつながる小・中・高校生 そして、家庭・地域の輪

県立山辺高等学校「食物科」の生徒が、「食育」をテーマとして、地域の小・中学校の児童生徒や、保護者・地域の方々と共に学び合い、新たな活動を創り出し、人と笑顔の輪を大きく広げています。

- 「山辺チーム食育」の実践
 - ・公民館を活用し、近江っ子クラブ(子ども会)の子どもたちと「食育カルタ」、「食育紙しばい」などをして楽しみ、「食育パネル」(展示)で学んだり、一緒に料理をしたりします。また、一人暮らしの高齢者に手作りお弁当を届けたり、ふれあいお茶のみサロンや高齢者料理教室を行ったりしています。
- 小・中学生や、保護者・地域の方々とのコラボレーション
 - ・山辺高校の生徒が地域の小・中学校に行ったり、小・中学生が山辺高校に来たりしながら、「食育」を通じて学び合っています。地域で採れたさといもやじゃがいもを使って、高校生が考えた「いもいもコロッケ」を、小・中学生と一緒に作りました。また、「安達峰一郎」のことを学んで創作した小学生の劇を見た高校生が、安達峰一郎さんをもっと知ってもらいたいという思いで作った「勲章クッキー」を、小学生や保護者、地域の方々と一緒に販売(町の産業まつり、山形空港など)しました。販売した収益金で、東日本大震災の被災地への寄付も行いました。

